

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

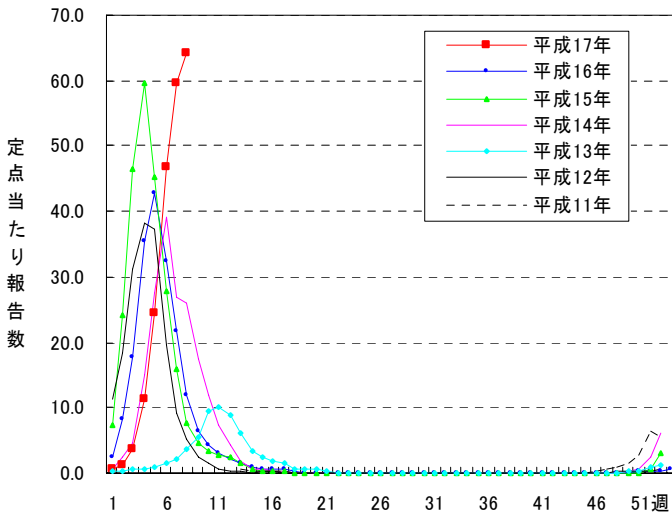
平成 17 年第 8 週(2 月第 4 週 2/21~2/27)

《作成》愛知県感染症情報センター

連絡先:052-910-5619 E-mail:eiseiken@pref.aichi.lg.jp

トピックス

● インフルエンザ流行状況



第 8 週の定点当たり報告数*は 64.1 人となり、平成 15 年第 4 週(59.5 人)を超えて過去最高となりました。また、平成 17 年第 8 週現在の累積報告数は 41,216 人と報告数の増加がみられ、平成 11 年 4 月以降としては年間累積報告数が最高であった、平成 15 年の同時期(44,720 人)に次いで過去 2 番目となりました。

保健所(市)ごとの定点当たり報告数の詳細については「インフルエンザの保健所別報告数の推移」(2 ページ)をご参照下さい。

* 定点当たり報告数とは 1 医療機関あたりの患者数を表します。
週患者報告数の合計 ÷ 定点医療機関数(インフルエンザは 195)

※その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

● 集団かぜの患者発生状況について

【平成 17 年 3 月 3 日午後 3 時現在】

	県		名古屋市		豊橋市		岡崎市		豊田市		合計	
	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数
計	4,436	2,782	3,132	1,861	360	219			462	273	8,390	5,135
前年同期	2,736	1,463	1,130	606	160	91			16	10	4,042	2,170

注1 県には名古屋市、豊橋市、岡崎市及び豊田市の患者数及び欠席者数を除く。

注2 患者数、欠席者数は、学級閉鎖等防疫措置を実施したものについて計上。

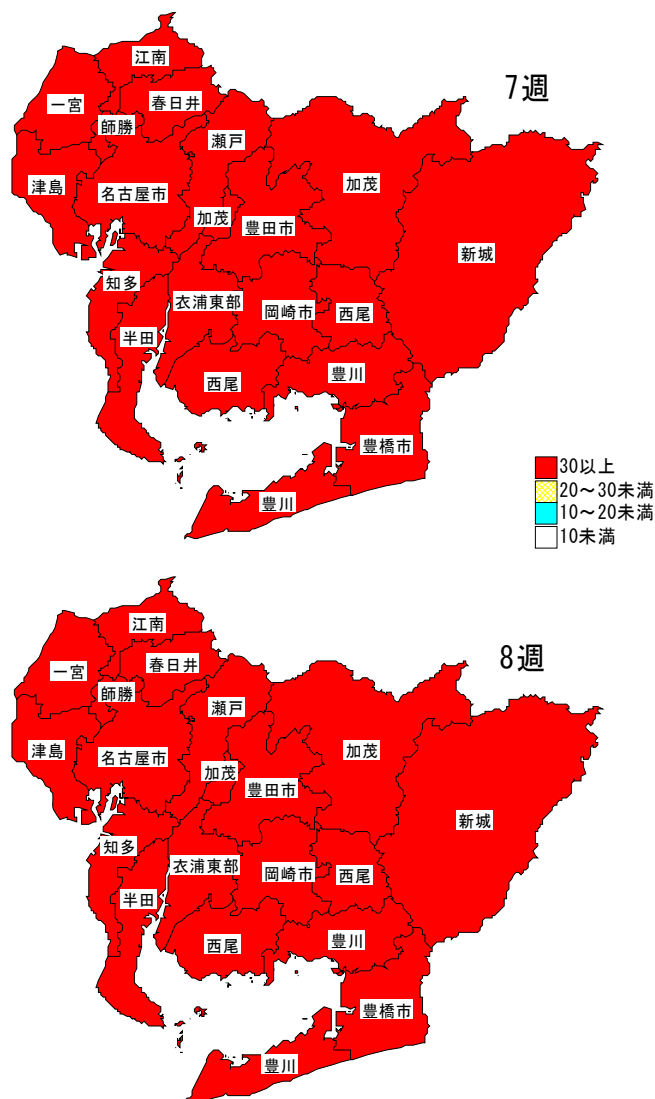
注3 欠席者数は、患者数のうち欠席した者を再掲として計上。

- ◆ 愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)
- ◆ インフルエンザ関連情報リンク (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/inf_links.html)
- ◆ 愛知県のインフルエンザの流行予測について (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/infyosoku.html>)
- ◆ インフルエンザウイルス分離状況 (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri04_05.html)

<インフルエンザから身を守るには>

- ① 過労を避け、十分な睡眠、栄養、保温に心がけて体調を整えましょう。
- ② 人混みへの外出をできるだけ避け、帰宅時には、うがい、手洗いをしましょう。
- ③ かかった時は、早めに医師の診察を受け、安静に保つことにより、肺炎などの合併症を防ぐよう心がけましょう。特に、高齢者の方は、インフルエンザの症状があまりでないが、長引くと肺炎など重症になる可能性があるため、かぜの症状がでた場合、早めに医療機関を受診することが大切です。なお、医療機関を受診する際には感染させたり感染してしまうことがないように、なるべくマスクをしましょう。

インフルエンザの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



		8週	定点 当たり	7週	定点 当たり			8週	定点 当たり	7週	定点 当たり
名古屋市	○	2,702	38.6	2551	36.4	岡崎市	○	927	84.3	779	70.8
瀬戸	○	783	87.0	507	56.3	衣浦東部	○	1,162	105.6	1,360	123.6
津島	○	534	76.3	580	82.9	西尾	○	298	59.6	308	61.6
師勝	○	387	96.8	323	80.8	豊田市	○	715	89.4	589	73.6
一宮	○	675	42.2	706	44.1	加茂	○	147	49.0	133	44.3
春日井	○	1,029	114.3	820	91.1	豊橋市	○	935	77.9	1,032	86.0
江南	○	393	65.5	340	56.7	豊川	○	593	65.9	531	59.0
半田	○	485	80.8	417	69.5	新城	○	127	63.5	106	53.0
知多	○	601	85.9	515	73.6						

○ は今週警報が出ている保健所(市)です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生注意報は保健所(市)定点当たり10人を越えた場合に、また、流行発生警報は30人を越えた場合に発生し、10人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

- インフルエンザ 81 人 A5 人 B61 人
症状からまたは家族からの感染を考慮し判断したもの 15 人 半分はワクチン接種済
B型でタミフル無効例あり。
B型は自然経過で1~2日 いったん解熱する例が多いように思う。
【一宮市 あさのこどもクリニック】
- インフルエンザ 42 名中A型 4 名
【一宮市 後藤小児科医院】
- 病原性大腸菌O1 3 歳女、4 歳男
病原性大腸菌O8 2 歳男
病原性大腸菌O18 6 歳男、2 歳男
病原性大腸菌O125 5 歳女
病原性大腸菌O146 5 歳女
インフルエンザが非常に多い。
【尾西市 城後小児科】
- インフルエンザA型が急増しました。A型 18 例 B型 43 例 合併症は中耳炎 1 名のみ。
【一宮市 平谷小児科】
- インフルエンザ今週がピークの様です。
【一宮市 医療法人かすが内科】
- インフルエンザB型 87 名 (うちワクチン接種者 45 名)。
A型 31 名 (うちワクチン接種者 19 名)
溶連菌感染症も目立ってきました。
ムンプス続発中
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- インフルエンザの流行続いています。
(B型が主でしたが、A型が少し増加しています。A型 71 名、B型 10 名)
溶連菌感染症も多くみられています。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- インフルエンザA型が増えてきました。
【江南市 河野小児科】
- 4 歳男、12 歳女マイコプラズマ肺炎 82 歳女
病原大腸菌ETEC(O6)検出 1 歳男 2 人 8 カ月女
ロタウイルス(+)インフルエンザA型 10 名
他は全てB型 ワクチンを2回接種しても罹患した方が数名居られます。
【春日町 丹羽医院】
- A型 8 名、B型 69 名
【師勝町 田中クリニック】
- インフルエンザ(66 名中)
A型インフルエンザ 29 名
B型インフルエンザ 37 名
インフルエンザ流行中、A型・B型重複感染 1 名(B型反応強のため、B型に計上)
【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

- A型インフルエンザの 40%、B型インフルエンザの 27%はワクチン接種済です。
アデノウイルス感染、マイコプラズマ感染もみられます。
病原大腸菌O25 3 歳男
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
- インフルエンザ流行中 (今週 106 例中検査 (+) はB型が多数ですが、A型の割合も先週より増加しております)
溶連菌感染症、成人例が多くみられました。
その他流行性耳下腺炎、突発性発疹
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
- A型インフルエンザ 3 名
B型インフルエンザ 9 名
【豊明市 豊明団地診療所】
- インフルエンザB 相変わらずです。
【春日井市 春日井市民病院】
- カンピロバクター腸炎 12 歳男
水痘少々
インフルエンザ 83 例 B型 66 例、A型 17 例、A+B 1 例 2 歳男 2 月 1 日と 2 月 25 日 2 回B(+)
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
- 今週もインフルエンザが流行しています。
先週よりも年少が多くなっています。インフルエンザAも 4 例見られました。
【春日井市 かがわ北病院】
- インフルエンザは、4 日遅れで家族が発症することが多いようです。
【春日井市 竹内医院】

- インフルエンザ増加している（B主体だがAも少しずつ増加）。
ロタ腸炎の入院例多し。
【小牧市 小牧市民病院】
- 今週に入り2月中にAとBと2度罹患例が3例あり、そのうち2例はワクチン2度接種例です。
【小牧市 志水こどもクリニック】
- インフルエンザA型5人、インフルエンザB型45人
胃腸炎減少傾向あり。
インフルエンザは増加傾向あり。A、Bともに増えています。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
- インフルエンザB 14名
インフルエンザA 5名
【半田市 医療法人林医院】

- インフルエンザA型 7名
インフルエンザB型 40名
水痘症小流行
【南知多町 医療法人大岩医院】
- インフルエンザ A型 22名、B型 49名でした。
【常滑市 常滑市民病院】
- インフルエンザ感染症 A型が増えてきました。
ロタ陽性の腸炎も相変わらずあります。
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
- 今シーズン以前にB型のインフルエンザに罹患し今回A型インフルエンザだった人が3名いました。AB混在している人も1名いました。今回A型インフルエンザは15名、B型は47名。
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

- 9ヵ月男、3歳女 ラピッドテストロタ/アデノ(ロタ+)
3歳女 カンピロバクター腸炎
9ヵ月女、1歳男、4歳男、5歳男、5歳女3名、6歳男2名、6歳女3名、7歳男、7歳女2名、10歳男2名、10歳女2名、12歳男2名 エスプラインインフルエンザA/B A(+)
6ヵ月女、9ヵ月男2名、9ヵ月女、1歳男2名、2歳男5名、2歳女、3歳男、3歳女4名、4歳男5名、4歳女5名、5歳男7名、5歳女5名、6歳男2名、6歳女5名、7歳女3名、8歳女、9歳男女、10歳女2名、12歳男2名、23歳男、32歳男、34歳女 エスプラインインフルエンザA/B B(+)
【豊田市 星が丘たなかこどもクリニック】
- インフルエンザA 10名
インフルエンザB 79名
【豊田市 田中小児科医院】
- インフルエンザ A型20名、B型65名
【岡崎市 医療法人深田小児科】
- インフルエンザ A型20例、B型61例
不明 1例
B型に対するタミフルの効果悪い。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
- 10歳女 カンピロバクター
アデノ(+) 2歳男、3歳女3人、7ヵ月男、9歳女
【岡崎市 にいのみ小児科】
- 4歳男 病原大腸菌O25
1歳女 病原大腸菌O1
5歳女 マイコプラズマ肺炎
インフルエンザ A型24(ワクチン接種者9)
B型42(ワクチン接種者18)
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

- インフルエンザ A型16名、B型70名
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】
- インフルエンザ全56例中 A型8例、B型48例でした。
【岡崎市 栗屋医院】
- インフルエンザA型12人(ワクチン済1人)
インフルエンザB型35名(ワクチン済8人)
臨床診断 1人
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
- 今週に入ってA型が増加していました。
家族内発症が相変わらず多く、成人感染が目立ちました。
【岡崎市 村山医院】
- インフルエンザ引き続き流行しています(やはりBが多い)。
ロタウイルス感染症、ムンプスもいます。
【碧南市 永井小児クリニック】
- まだインフルエンザ流行中です。
【刈谷市 まついこどもクリニック】
- F l u A10、B26
便中ロタ4
【刈谷市 田和小児科医院】
- インフルエンザ103名A型は少ないです。
感染性胃腸炎、ロタが多いです。
【知立市 宮谷クリニック】
- 1歳2ヵ月女 ロタウイルス
4歳1ヵ月男 マイコプラズマ肺炎
9歳5ヵ月女 伝染性単核症
インフルエンザが流行中です。B型が主流です。
【三好町 三好町民病院】
- 4歳女 帯状ヘルペス(水痘ワクチン接種完)
【西尾市 やすい小児科】
- インフルエンザ依然流行 ややA型増加85人(A型30人 B型55人)
【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

- 2月の初めにインフルエンザB型、終わりにA型にかかるというケース、またはその反対のケースもありました。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
- 1歳男 アデノ扁桃炎
7歳女 マイコプラズマ肺炎
【豊橋市 野村小児科】
- インフルエンザA型2名
B型30名の計32名
【豊橋市 医療法人杉浦内科】
- インフルエンザA型15名、B型43名
【豊橋市 おだかの医院】
- インフルエンザはA型27名、B型108名の計135名で、ピークは過ぎたようです。
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】
- インフルエンザ多い。B型がほとんど、A型散発
ロタ腸炎も多いがやや減少傾向
ロタ腸炎の入院散発
【豊川市 豊川市民病院】
- タミフル不応のB型インフルエンザあり。
【蒲郡市 蒲郡市民病院】

一～三類感染症の発生状況

— 愛知県(名古屋市を除く。) —

- 発生報告なし

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

— 愛知県(名古屋市を除く。) —

- 後天性免疫不全症候群1例(無症候性、推定感染経路:性的接触、推定感染地域:不明)
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hiv.html>)
- マラリア1例(三日熱、推定感染地域:ブラジル) 8週報の再掲
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/mosquito.html#ma>)
- ※ ウイルス性肝炎1例(B型、推定感染経路:不明) 9週報告分
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-2>)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

3月3日、桃の節句です。商店街のウインドウにはお雛様や桃の花が飾られ、小児病棟では雛祭りの歌が聞こえ、何とはなし春めく季節というのに、昨今のこの寒さです。これも異常気象でしょうか。さて、いつも貴重な情報を有難うございます。2月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：城北病院渡辺先生からはインフルエンザが増加、時間外受診者が多くてパニック状態。まだ解熱剤使用せず直ぐに来院、発熱後間がなくインフルエンザ陽性に出ない例もあり、B型が多いがB：Aは4：1程度。インフルエンザ増加のためか？その後のCRP上昇例が多く入院例も目立ち、感染性胃腸炎がまだ横這いで嘔吐が多かったが最近下痢を伴う例が増えている感あり、マイコプラズマ陽性者ちらほら、アデノウイルス感染症ほとんどなく、RSウイルスの喘息様気管支炎は横這い傾向、千種区今枝先生からはインフルエンザ時々、感染性胃腸炎；2歳男、6歳女、9歳女の同一家族で2-3日の間隔で発熱と下痢、カンピロバクター陽性例あり、三菱病院入山先生からはインフルエンザ26名と多く（B型優位でA型も混在）、入院も目立ち（A型の4ヵ月と2歳の兄弟例、気管支肺炎、脱水の合併等）、感染性胃腸炎5名（黄色ブ菌、病原性大腸菌O146、O25）、マイコプラズマ感染を含む肺炎の入院数名、1歳のロタウイルス腸炎の入院1名あり、とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎が散発中でムンプス1例、インフルエンザが多発中でことにB型が多くA型は散発（2月第1週4例、2週7例）、常滑市民病院上田先生からはB型インフルエンザが目立ち要入院例あり、感染性腸炎（ロタウイルスなどウイルス性。要入院例目立つ）、溶連菌感染症、突発性発疹、肺炎球菌性肺炎、マイコプラズマ肺炎が目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはインフルエンザB（時にA）、ロタウイルスが増加、入院も目立つ、加茂病院梶田先生からはインフルエンザA、Bが増加（A<B）、ワクチンを接種していてもうつっていることも多く入院例増加、感染性胃腸炎がまだ多くロタウイルスによる入院例が多数あったが徐々に減少、刈谷市田和先生からはインフルエンザA5名、B68名、アデノウイルスによる扁桃炎2名、ロタ陽性の腸炎5名、碧南市永井先生からはインフルエンザ流行中でBが多いが最近Aも増えてきた、ロタウイルス感染症もあり、豊橋市からはインフルエンザB、ロタウイルス胃腸炎が目立つ（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2005 年 2 月 4 日（80 巻 5 号） <http://www.who.int/wer/2005/wer8005/en/>

☆ 鳥インフルエンザ。ベトナム。最近の状況；05 年 1 月 28 日、WHO にベトナム当局からインフルエンザ A（H5N1）人感染例 2 例追加報告。①：10 歳女、南部ベトナム、発病 1 月 13 日、20 日入院、現在重症。②13 歳女、南ベトナム、発病 1 月 20 日、22 日入院、重症。①は 1 月 14 日発病、21 日死亡の 35 歳、ウイルス確認例の娘であり、家族集積性から他にも人から人への流行の兆しがないか当局は注意深く監視中。この 2 例で 04 年 12 月以降のベトナムの鳥インフル人感染例は 12（死亡 9）となったが医療関係者の感染は報告されていない。医療従事者の注意事項遵守は継続中。

☆ 髄膜炎菌髄膜炎。チャド：05 年 1 月 6 日～25 日、臨床診断 14 例。北部チャド難民キャンプ。12 検体検査、髄膜炎菌 W135 陽性 5 例、インフルエンザ桿菌陽性 2 例。国際協力チーム（同国保健省、WHO、UNHCR、ユニセフ、オランダ MSF、赤十字と赤新月社）が 17 万 8 千人分の多価ワクチンを難民キャンプと周辺農村で接種中。

☆ ポリオ。スーダン。04 年発生：WHO 東地中海地区に属しているスーダンでは 94 年から北部で、南部では 98 年からポリオ根絶計画実施、01 年 5 月～04 年 4 月の野生株患者ゼロであったが 04 年 5 月、西部ダルフル州で 1 型野生株ポリオ発生、流行は同国 27 州のうち 17 州に及んでいる。①ポリオ生ワク 3 回接種終了率は WHO の推定で 50% であり内戦紛争地区では非常に低いと思われる。②定期外全国一斉集団接種は 03 年以降実施されていない。③臨時緊急接種：流行開始後西部ダルフル地区で 760 万人に実施され高い接種率が報告されているが南部・西部では国内戦紛争で手が届いていない。④急性弛緩性麻痺（AFP）調査：04 年の AFP 報告数 598 例、野生株確認例 109 となっているが紛争地区ではサーベイランス網は機能していない。⑤分離野生株は 1 型が主体で北部ナイジェリアとチャドの分離株類似（届出数グラフと地図あり）。

☆ メジナ虫（注：Dracunculiasis、ギニア虫。寄生虫症。中間宿主ミジンコ。汚染飲料水の経口感染症。成虫は下腿皮下で成熟、尾部が皮膚を破り産卵。皮膚炎、潰瘍、運動障害発生）。根絶計画：1980 年代から WHO が根絶計画推進。安全な水供給活動と集団投薬を含む住民教育で激減、インド・パキスタンでは根絶、04 年には年間 100 例以上の報告はガーナ、マリ、ニジェール、ナイジェリア、スーダン、トーゴの 6 カ国で、ガーナとスーダンで 90% 以上を占めている。絶滅は近いと思われていたが内戦が激化しているスーダンが問題となっている（年別届出数と地図あり）。

☆ 1 月 28 日届出。コレラ：ブルンジ。

2005 年 2 月 11 日（80 巻 6 号） <http://www.who.int/wer/2005/wer8006/en/>

☆ 鳥インフルエンザ。ベトナムとカンボジア；1)05 年 2 月 2 日ベトナム当局から鳥インフルエンザ H5 人感染例の報告。25 歳のカンボジア女性。1 月 21 日発病、27 日隣国のベトナムへ入院。30 日死亡。ホーチミン市パスツール研から 2 月 1 日 H5 陽性の報告。インフルエンザウイルス H5 陽性のカンボジア初発例。2)ベトナムにおける人 H5N1 感染死亡例追加 3 例。13 歳女と 10 歳女は既報。第 3 例は 1 月 27 日死亡、30 台男性。12 月以降のベトナムの鳥インフル人感染例は 13（死亡 12）例となった。

- ☆ デング出血熱。東チモール：05年2月1日、WHOに95例（死亡11）の報告。当局はWHOの支援で医療関係者対象のセミナー開催、国立病院、蚊防除支援などを予定。
- ☆ 黄熱。アフリカにおける黄熱対策：最近の黄熱病常在地は44カ国（33がアフリカ、11が南米）で、1970年代にはワクチン普及で患者数は減少したが80年代にワクチン接種率低下と共に増加、再興感染症として問題となり最近のアフリカで5億人が感染危険にあると推定される。1988年からユニセフ・WHO合同委員会でアフリカ地区黄熱ワクチン普及活動が開始されている。本報は最近の状況のまとめである。①アフリカにおける重要性：00-04年で33カ国の危険地区で16カ国から1,927（死亡425）例届出。象牙海岸、セネガル、ケニア、ギネア。20年以上0で再流行の地区あり（表あり）。②WHOの撲滅計画勧告：予防接種。1)定期基礎免疫：乳児期の定期接種。12カ国で実施されているが接種率は低い（麻疹ワクチンより低い。表あり）。2)追加接種：基礎免疫終了後数年間隔で住民全体を対象として接種反復が望ましいが、普及率は低い。04年以降ギネアとセネガルで発生地を重点に実施されている。3)サーベイランス網と検査室整備（01-04年の検査室の分布地図あり）。4)ワクチン供給：不足。製品の不足と経済的問題。
- ☆ 津波。04年-05年、タイ。緊急対応、評価、サーベイランス：04年12月26日の地震による津波の結果、8カ国で推定22万5千人が死亡する大災害が発生した。本報はタイ当局（Ministry of Public Health, MOPH）と国際各機関の活動の初段階のまとめで今後の報告も待たれる。今回タイでは西南の海岸部6州が被害を蒙った。6州の場所とサーベイランスセンター分布の地図あり。①緊急対応：12月26日、バンコクに中央指令センター、各州に指令センターが設置され全ての医療活動などの関係者に動員が発令され、緊急医療チームが約100チーム、技術支援と健康教育担当者が12チーム、サーベイランスと解析担当者が5チーム、精神的支援の担当者が6チーム、医療従事者や難民のための伝統的マッサージ治療者3チームが支援活動を開始。②津波襲来後6時間にバンコクから最初のチームが到着、活動開始。05年1月9日時点で被害地区や避難者のための救急センターで9,798名が外来治療を、2,233名が入院治療を受け、約8万名が移動巡回車で治療を受け、衛生面の問題点把握や住民教育と環境改善活動の技術的支援、精神的ケアの支援が実施され、食物と水供給や感染症発生時の検査室態勢も整備された。③保健衛生上のニーズの解析が当局と米合衆国関係機関の作業として実施された。④公衆衛生的サーベイランス：1)05年1月25日時点で5,388名の死亡が確認され8,457名が外傷、3,120名が行方不明となっている（以上、詳細略）。2)タイMOPHは1970年から感染症サーベイランスを実施しているが、津波発生後外傷感染、ショック、急性下痢症、呼吸器疾患、髄膜炎、発熱疾患について届出、解析を実施。一部の州では報告網に不備があるが積極的に継続中。05年にはサーベイランス網が確立されてその後の症例数の変化のグラフあり、急性下痢症と呼吸器疾患の増加が目立つ。
- ☆ 1月21-27日届出。コレラ：ニジェール、タンザニア、インド、日本（輸入例）、フィリピン。

愛知県感染症情報

2005年第1週～第8週(平成17年1月3日～平成17年2月27日)(累計)

愛知県衛生研究所

愛知県	定点数					RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性)	インフルエンザ(除く)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ (成人麻しんを除く。)	麻しん	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																						
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	102	41,216	268	1,608	11,878	2,325	186	201	797	9	6	34	4	1,445	1	200	0	0	51	0	0	
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	86	32,645	206	1,134	8,401	1,815	157	157	614	9	2	20	2	1,092	1	159	0	0	51	0	0	
名古屋	70	70	11	14	1	16	8,571	62	474	3,477	510	29	44	183		4	14	2	353		41						
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	13	1,963	52	109	364	95	1	19	35		1	3		27		4			13			
海部津島	津島	7	7	2	2		1,920		38	755	78	4	12	27					125		6			2			
尾張中部	師勝	4	4	1	1		938		19	275	61		4	6					1		8						
尾張西部	一宮	16	12	3	4		2,425	11	69	648	143	14	6	49					71	1	7						
尾張北部	春日井	9	9	2	3	15	3,085	62	74	621	162	6	10	65	1	1	6	1	76		16						
	江南	6	6	1	2	3	1,267	23	116	538	90	16	1	60			1	1	113		6						
知多半島	半田	6	6	1	2	5	1,304	9	25	452	157	22	14	18			1		106		3						
	知多	7	7	2	2	7	1,961	9	233	535	88	2	5	60			1		115		2						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	3,330	2	67	220	124	29	7	81	1				117		3						
	衣浦東部	11	11	2	4	5	4,590	2	69	558	215	12	38	59			1		86		33			1			
	西尾	5	5	1	2	11	1,085	5	51	297	100	20	7	23			2		31		16						
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	5	2,166	2	91	1,700	191	15	8	52	6		1		95		32			18			
	加茂	3	3		1		579	6	13	187	55	5	3	8					26								
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	3,802	21	78	629	73	3	4	42			2		24		19			17			
	豊川	9	8	1	2	20	1,937	2	81	596	170	7	19	28	1		2		75		4						
東三河北部	新城	2	2		1		293		1	26	13	1		1					4								

